≪地域の貴重な伝統文化≫

船形･香取神社や今上･女體神社でオビシャ

～それぞれが地域の伝統に則ったスタイルで～

２月 11 日（火・祝）、29 品目の魚類や野菜を神前に供える方法で、200 年以上も前から続く船形･香取神社の「オビシャ」（船形香取神社御社擅御膳献上式（ふなかたかとりじんじゃごしゃせんおぜんこんじょうしき）・野田市指定無形民俗文化財）と、社殿から的をめがけて弓を放つスタイルで、350 年以上も前から継承されてきた今上・女體神社の「オビシャ」が行われる。いずれもそれぞれの地域で、代々受け継がれてきた貴重な伝統文化である。

①２月 11 日～船形･香取神社「オビシャ」

●神前には 29 品目の大地や川の幸

現在でも 29 品目の野菜や魚が神饌（しんせん）として供えられ、『トワタシ』といわれる当番の引き継ぎには、御神酒の拝戴（はいたい）に続いて、高砂（たかさご）などの謡曲の奉納が行われる。船形･香取神社の「オビシャ」は、毎年 2 月 11 日に実施される。

なお、香取神社の創建は、仁寿年間（851～854）に石宮を建て、その後元和３（1617）年に社殿を建てたとも貞和年中（1345～1350）造立の石宮の破片があるともいわれているが、定かではない。

●船形･香取神社の「オビシャ」の特色

船形の香取神社の「オビシャ」は、天明９（1789）年以前から旧船形村一帯に伝承されてきたもので、正式には「船形香取神社御社擅御膳献上式」という。

これは、利根川中下流域の生活文化の特色を示す「直会（なおらい）形式」のもので、古い形態を残す典型的な行事である。

現在、ビシャ組は 15 組（西浦･大和田･久保･松山･山中･島新田･谷津ケ崎･明光地（みょうこうち）・田端（たっぱた）・石塚･房地（ぼうち）・石川山･猪穴（ししあな）・上ノ井（うえのい）・鍛冶屋）に分かれ、集落ぐるみで年番で持ち回っている。

当番の組は、野菜や魚を揃え、調理から供進（ぐしん）まで古式に則って神前に供える。お供えや御膳は、撤饌（てっせん）の後、その年の賄い方の組に下げ渡される。

また、御神酒は各組に分配され、当番以外の組でもそれぞれ直会が行われ、船形地区の地域的特色となっている。

なお、神前に供えられる御膳は29品目ほどで、明治８(1875)年の式部寮達（しきぶりょうたっし)「神社祭式」（じんじゃさいしき）に示された13品目の画一化した神饌の形態と異なる古い形式を伝えているもので、平成13年１月23日、市内で初めてとなる市の無形民俗文化財に指定された。

②２月11日～今上･女體神社「オビシャ」

●ふたつの神社で実施

２月11日、今上地区の上谷（うわや）･女體神社と下谷（したや）･女體神社でもオビシャが行われる。

半紙で作った「的」に社殿から矢を放ち、見事に当たると縁起がよいとされている。

上谷･女躰神社は､慶安４(1651)年に葛飾郡内川村(現在の埼玉県吉川市)の岡田八郎兵衛が今上村に隠居し、生まれた所の神社を模して氏神としたのが始まりといわれ、下谷にも上谷の女體神社を模して創建されたという記録がある。

午前10時00分ごろから上谷の女體神社でオビシャが行われたあとに、下谷の女體神社でも同様のスタイルで実施される。

《野田のオビシャ》

利根川下流域を中心に広く分布する「オビシャ」と呼ばれる神事は、一部に弓矢で的を射る行事があるため、その年の豊凶を占う伝統行事とも考えられるが、弓矢を用いないオビシャの例も多く、新たな氏子入りの儀式や、豊作を事前に祝う予祝（よしゅく）儀礼、祭祀を氏子が交代で務めるための当番の引き継ぎの儀式など、さまざまな要素がうかがえる民俗行事。

木間ケ瀬･今上のオビシャは弓矢を射る形式だが、船形のオビシャでは弓矢は射らない。しかし、29種類の山野菜や魚が神饌として供えるなど、市内でも地域により、そのスタイルが異なる。

問合せ＝生涯学習課文化財係･電話04-7199-8595

野　田　市